

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは2号館		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 19日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全てのプログラムをマンツーマンの個別支援で実施しています。児童一人ひとりの情緒やペースに深く寄り添い、安心感のある環境の中で「伝えたい」という自発的なコミュニケーション意欲を引き出す関わりを徹底しています。	言語聴覚士(ST)を中心とした専門的なアセスメントに基づき、1対1の強固な信頼関係を土台としたコミュニケーション支援を行っています。単なる発語の訓練に留まらず、児童の欲求(要求)を適切に言葉へ繋げる「やり取りの楽しさ」を育み、生活の質を向上させる関わりを重視しています。	現在、複数の言語聴覚士による専門的支援を軸としています。今後は理学療法士(PT)や作業療法士(OT)等の配置をさらに進めていきたい。経験豊富な保育士や児童指導員も加わり各専門領域の視点を融合させることで、児童の成長がさらに大きくなるよう、支援体制を構築していきます。
2	言葉の専門家である言語聴覚士が複数在籍し、適宜、専門的な検査を通して児童の発達状況を詳しく分析しています。検査では「検査に基づいた確かな根拠を持って、一人ひとりの個性にぴったりの訓練や療育メニューを作成し、無理のないペースで成長をサポートします。	言語聴覚士だけでなく、経験豊かな保育士や児童指導員も多数在籍しています。専門分野の異なるスタッフが、児童の情報を共有し、協力、連携、サポートする体制を整えています。言葉の訓練だけでなく、遊びや生活面も含めた「総合的な成長」をチーム全体で後押しします。	現在、複数の言語聴覚士による専門的支援を行っています。今後はさらに理学療法士や作業療法士といったリハビリの専門家(セラピスト)の拡充を目指しています。「言葉」だけでなく「体の動き」や「手先の器用さ」など、あらゆる角度から児童の成長後押しする専門チームの充実を図りたい。
3	「ことばの教室ことのは」では、複数のグループ教室にたくさんの方の言語聴覚士や理学療法士、作業療法士がいるので、その強みを活かすことも連携を図っています。成功した事例や新しい知識をみんなで共有することで、どこの教室でも質の高いサポートができるよう体制作りを進めています。	定期的なオンラインで情報交換会や勉強会を行なっていて、一人の職員や一つの教室で悩むのではなく、姉妹教室全体で連携し、多くの事例や情報をスムーズに共有し、組織全体で知恵を出し合っています。	教室間でスタッフが行き来する「交換留学」を積極的に行っています。他の教室の良い工夫や運営方法を直接見たり、肌で感じることで、「ことのは」全体の支援レベルを底上げし、どこの教室でもより良い支援を提供するために会社全体で学びの輪を広げています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	当教室ではまず児童と職員の関わりが個別対応が特徴で「個別対応での児童への寄り添い」を土台にしています。そのため、集団活動や社会性やルールを学ぶ集団活動について、集団への参加が難しい場合は、あまり無理強いはしていません。そのため集団活動への促しなどの声かけが弱かったり、集団活動への経験値が上がりにくいことです。	集団の中では埋もれがちな「児童一人ひとりの特性や発達課題」を確実に捉えるため、できる限り個別訓練に重きを置いた体制をとっています。そのため児童がマイペースに過ごしたり、お友だちとの交流や集団での一斉活動に発展しにくい状況です。	児童が夢中になっているアニメやゲームなどの興味・関心を、学習や課題への導入として積極的に取り入れています。「好きなことなら頑張れる」という意欲を大切に、共通の遊びを軸に、時にはゲーム立ってで競うことをエネルギーにして取り組みたくなる活動の工夫や創出などをしていく必要があると考えています。
2	毎回の訓練後に行う丁寧な申し送りを通じて、保護者様お一人ひとりの深い信頼関係を築いています。一方で保護者様全体への支援としては、保護者会の開催などがまだ弱いと感じています。	当教室では保護者様からの「訓練時間を最大限に確保してほしい」という高いご要望が多く、また、保護者間の交流や情報共有の場に対するニーズもこれまで少なかった状況です。	しかしながら、年度によっては少数ながら情報共有や交流の場があれば参加したいという意見もあったため、令和7年度は初の保護者会開催が実現しました。次年度以降は希望者や少人数での保護者会開催など、保護者様が参加しやすい形態を検討し、オンライン開催や複数回開催など気軽に参加できる保護者会の開催の実施を図って行きたいと思えます。
3	教室内での個別支援と専門性の向上に注力していることもあり、地域の保育園や学童クラブ等との連携・交流が少ない状況です。また、地域の人々との交流や地域行事への参加も限定的なため、開かれた教室や地域社会との繋がりについて課題と感じています。	ことのはの利用児童の実態として、年齢差も大きく教室内の児童同士でも一緒に活動が発展しにくい面があります。また、自分の気持ちをどのように伝えて良いかの経験も少なく、なかなか地域の見知らぬお友達との交流が難しいため定期的な交流機会を計画できずにいます。	施設・団体全体での交流については実際に難しいですが、言葉でのコミュニケーションが取れる一部の児童からでも地域の公園や児童館等に出向き、地域の児童たちと交流できるよう職員が仲介し小集団での交流は実施していきます。